

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①子どもの資質・能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの確立を行うよう、作成した年間指導計画を検証する。②一人ひとりの教育ニーズや学習状況に応じた課題解決になるよう、市沢独自の時間での指導や支援を具体化していく。③一人ひとりの思いや考えを表現するツールとして、ソフト面からとハード面からの両方でICT機器を活用していく。	①子どもの資質・能力の育成に繋がった年間指導計画になっているか、今後も検証していく必要がある。②一人一人が課題をもって学習に取り組めるようになってきた。一人一人の状況に合わせているか、学年の系統を踏まえた支援を考えていく。③ICT機器を活用することによって自分の思考を伝える機会が増え、自己有用感も向上した。少しずつICTを活用するルール作りも充実してきた。	B
豊かな心	①自分の心の有り様を見つめることができる児童を育てる。②毎月の生活目標を振り返り、自律的に行動できているか考える活動を通して、自分の行動と心の有り様について考えることを習慣づけていく。③特別の教科「道徳」で考えた価値についても、日々実践できているか考える習慣を育てる。④特別活動「児童会と連携して、人とつながることを大切にしたい」活動の充実を図る。	①②自分の行動が変わっていくために、自分の心を見つめる時間を設定することはできていた。その際、めあてが細分化されていることがよいときもあれば、そうでないときもある。③④道徳や特別活動で学んだ気持ちを児童自身が主体的に行動に移そうとする気持ちを全校的に盛り上げていく必要がある。	B
健やかな体	①望ましい生活習慣の定着を図るために、学校保健委員会や保健教育を実施する。②日々の体育学習やスポーツ広場、休み時間などを通して、児童が多様な運動に取り組むことができるようにする。	①睡眠の意識を高められるよう学校保健委員会や健康観察票に取り組んだ。長期間になると意識が薄れてしまう様子が見られるので、今後も保健教育などの充実を図りたい。②休み時間以外に出ている児童が多く、運動意欲が高いと感じる。今後も多様な運動に取り組めるよう日々の体育学習やスポーツ広場の充実を図りたい。	B
自分づくり教育 (キャリア教育)	①自ら課題をもち、地域の事象に対して自分事として向き合いながら課題解決していく活動の充実を図る。活動をとおして、地域や集団の中で自分の役割を自覚しながら他者と関わるようにしたり、子どもたち一人ひとりが自分に自信をもてるような承認の声を積極的に挙げる。②毎月、一人ひとりが自らを振り返る時間を設けることで、自身の変容を自覚する。	①地域の事象と関わることで自分事として課題について積極的に課題解決する姿が充実することが分かった。他者との関わりがあることで児童が自分の役割を自覚できるので、教師側がそのような機会を十分設ける。②活動のふり回りの定着ができた。児童が自身の変容に気づけるような指導をする。	B
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を定期に開催し、いじめ基本方針をもとにして未然防止、迅速な対応を行う。②生活に関するアンケートにより傾向をつかみ、児童の様子を見守る視点を得る。③児童会活動を通して、子どもたち自らがいじめをなくすために必要なことを考え、横浜子ども会議に取り組んでいけるように支援する。	①事象があった際には、情報を集約し、迅速に対応することができた。職員間の協力関係が良好であった。②直接児童と話す機会を設けることにつながっており、子どもの思っていることを把握しやすかった。③中学生との活動があったことで、印象深かった。	B
組織運営 人材育成	①企画部での検討をブロックリーダーを中心に伝達したり、逆に学年や日頃の課題を全体化したりできるようにする。②企画部、メンター部の中間にドル層を中心としたメンター育成部を設置し、それぞれのキャリアステージに応じた相互の課題を解決することができるよう協働する。③メンターでは、「授業を中心とした課題解決」をテーマにし、メンター育成部と協力しながら主体的に解決に向かう。	①企画部、ブロックリーダーを中心に意見の吸い上げや共有するという意識が全体化できている。②③メンター育成部の協力を得て、メンターの課題に取り組むことができ、一定の成果はあるものの、メンターから育成部へのリクエストや相互の課題解決については今後もやり方を模索する必要がある。	B
特別支援教育	①児童の長長を見取る視点を共有し、個別の指導計画における課題の設定や手立ての構築を的確に行えるようにする。②特別支援教室の担当と担任の連携を深めることができるような体制を構築する。③職員間の共通理解を図り、方針を同じくして対応できる体制を作り、迅速に対応する。	①個別の指導計画をもとに、個別に支援することを日々積み重ねてきた。②③職員会議での情報交換は効果的に行っていたが実際の特別支援教室を常時開催することができなかつた。一学級の児童数、指導者側の人的資源、時間的資源がない中、理想的に行うことは難しいと考える。	B
児童指導	①児童が自律的に行動する意識を高めることを目指す。②自分づくりパスポートと生活目標を運動させて、定期的に振り返る機会を設ける。③毎月の振り返りを児童に意識させることができるように、教職員自身が生活目標を大切にできるように啓発を行う。④不登校児童の気持ちをふまえた学ぶ機会の提供を行う。	①②③児童自身の自律的な意識がもてつつある。掲示物による啓発活動を機会として、職員・児童間の共通理解が図れ、意識高く、めあてをもつことができた。実践に移す児童をより称賛していくことで、望ましい学校風土を築いていけるとなっており。④仕組みを構築し、運営に移せた。改善を積み重ねていきたい。	A
働き方改革	①ICTを働き方改革のツールとして活用し、その価値を上げていく試みを進める。まずは、ペーパーレス化に向けて可能性のあることを試行するにあたり、配付文書についてPTAと連携して取り組み、配付・集計の効率化を図る。②会議における時間の軽重をつけ、重要事項に時間をかけるようにする。事前の分掌内検討において内容の精選を行い、協議内容の明確化を進める。	①職員会議資料や教職員間の資料、アンケートについてはペーパーレス化が進み、文章発信側の時間削減にもなっている。校外向けの文章については、PTAから概ねペーパーレス化に賛同の声を集めることができた。②会議時間の軽重をつけ、その分を授業準備に当てることができた。	A
地域連携	①学校運営協議会との連携を深め、教育活動への活用の仕方を実践を通してする。②150周年記念事業部を立ち上げ、地域と連携しながら学校の歴史を学び感謝と愛着の心を育てる。③地域と連携した防災への取組を考える。地域防災を通して防災への意識を高める。	①学校運営協議会が発足し、コーディネーターを通じた活動が見られたが一部に留まっていた。今後活用の幅を広げていく。②150周年記念の年として一層子供たちに感謝と愛着の心を育てるべく全活動を結び付けていく。③中学年を中心として地域と連携した防災教室を開催した。	B
ブロック内 評価後の 気付き	小中移管教育研究会において、各教科で学習評価の情報共有と評価の仕方をすり合わせることでできた。基礎学力の向上は、本ブロックの課題でもあるが、各校での取組を発表したり、参観することで学習時間の作り方や取り組み方を考えることができた。今後も継続した実践と共有が大切だと感じている。また、教科によって小学校と中学校の授業のつながりや段階の変化について課題を感じる場面があった。小中学校の交流や授業参観の際にテーマの一つに挙げて今後も考えていく必要があると感じた。		
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①学ぶ楽しさに繋がる、主体的・対話的な学習を模索する。②一人ひとりの教育ニーズや学習状況に応じた課題の設定になるよう、市沢独自の時間での指導や支援を具体化していく。③ICT活用を通して、自分の考えを表現し、共に課題を解決し、さらに互いのよさを認め合えるようにする。		
豊かな心	①自分の行動について、メタ認知力を育むため、毎月の生活目標を振り返り、自律的に行動できているか考える活動を行う。②特別の教科「道徳」で考えた価値を日々実践できているか考える習慣を育てる。③特別活動「児童会と連携して、人とつながることを大切にしたい」活動の充実を図る。		
健やかな体	①望ましい生活習慣の定着を図る。学校保健委員会や保健教育を通して、自らの健康意識を高める。②日々の体育学習やスポーツ広場の充実を図れるよう、令和4年度に行った運動をロイノートなどを活用して全校に周知したり、運動する場面を増やしたりする。		
自分づくり教育 (キャリア教育)	①体験を通して自ら課題を見つけ、他者と協働しながら自分なりの解決方法を選んだり決めたりしながら課題解決していく活動の充実を図る。②活動を通してふり回りの機会を定期的に設け、児童自身が自己の成長を感じることでできる機会の保証と、ふり回りを生かした活動展開の充実を図る。		
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、いじめ基本方針をもとにして未然防止、迅速な対応を行う。②生活に関するアンケートと実態調査、職員の見取り等複合的にいじめ行為の発見に努める。この一連の調査の結果に合わせ、児童と直接話す機会も設ける。③横浜子ども会議に取り組む。		
組織運営 人材育成	①ブロックリーダーを中心に企画での検討を全体化したり、全体の意見を吸い上げたり円滑な組織運営を図る。②メンター育成部として、メンターからの要請に応じ、必要な助言を行い、協働しながらそれぞれのキャリアステージに応じた課題解決に取り組む。③メンターの課題に対して、メンター育成部からの助言を積極的に求め、協力しながら課題解決に向かう。		
特別支援教育	①個別の指導計画をもとに、個別に指導が必要な児童の把握に努める。②特別支援教室の体制について人的保障が可能なかどうかの視点から検討する。③日々の学習指導についてのあり方について情報交換を行うことを通じ、職員の研鑽に努める。④個別支援級入級を視野に入れた児には交流活動を提案、充実させ、円滑な入級に努める。		
児童指導	①児童が自律的に行動できることを目指し、今月のめあてや自分づくりパスポートなどのふりかえりを定期的に行うことができるようにする。②ICTを活用し、ふりかえる機会を効率的に設けられるようにする。③教職員が自らをふりかえることができるような連絡・協議する場を設ける。④昨年度設けた登校支援が要する児童への対策を運営する。		
働き方改革	①校内・校外に向けた文書のペーパーレス化を進める。②ICTを活用した情報発信と情報収集の仕方を模索し、効果的な方法を試みる。③めざす子どもの姿に向けた会議の在り方を問い直し、必要な協議事項は何か、新たな検討事項は何か、目標達成に迫る会議の時間を考え、変革していく。		
地域連携	①学校運営協議会の運営を通して、今後の活用の仕方や連携の仕方を模索する。②150周年の取組を通じて、学校への愛着の心を育てる。③地域と連携した防災への取組を継続して行い、地域防災への意識を高めていく。		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	c4		
いじめへの対応	c5		
組織運営 人材育成	c6		
特別支援教育	c7		
児童指導	c8		
働き方改革	c9		
地域連携	c10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--